

● 地域提案型

平成21年度 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	中華人民共和国
2. 事業名	金壇市における環境教育に基づく豚糞尿液肥利用の耕畜連携支援プロジェクト
3. 事業の背景と必要性	金壇市では家畜尿（主に豚尿）は、近隣の河川、運河に投棄されるのが一般的であり、それらが太湖に流れ込み、太湖の水質汚染の原因のひとつとなっている。 同市はこれまでの築上町との交流で液肥の農業利用に大きな関心を示すようになり、2010年には金壇市内で養豚排泄物の液肥利用についてモデル実証を実施したところ、それに必要な人材育成、技術の普及に関して技術協力が築上町に要請された。 本件事業では、築上町が15年に渡り培ってきた液肥利活用事業のノウハウの要、すなわち農作物や土壌への影響を理解した上での農業現場での液肥施用技術や、周辺の社会環境の変化に合わせた液肥事業の付加価値増強、地域が一体となった事業とするための環境教育の実施など、特に行政が不得手とする分野について重点的に支援する。
4. 事業の目的	金壇市が産廃棄物の処理方法を地元農業での液肥利用と定め、それを組織的に普及・拡大するという方針を打ち出す。
5. 対象地域	金壇市
6. 受益者層（人数規模）	金壇市の総人口53.99万人の内、農村人口37.78万人
7. 活動及び期待される成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 液肥の農地散布にあたっては、金壇市の指導下で耕種農家と畜産事業者が参加し、地域における液肥利用の調整・運営を図る液肥利用組織を立ち上げる。 2. その上で金壇市主導のもと、畜産事業者等がトータルコスト4500円/ha/年（現在の水稲の化学肥料コスト）以下で、排泄物処理と液肥の農地散布までを実施できるような循環システム計画を策定する。 3. 耕畜連携の循環事業で生産された農産物が“緑色食品”（中国の減農薬・減化学肥料の認定農産物）などの高付加商品となり、地元農家の収入向上ならびに地産地消に貢献する。 4. 金壇市住民の液肥利用に対する意識改善を図る。
8. 実施期間	2010年6月～2012年3月
9. 事業の実施体制	金壇市サイド：金壇市役所（特に農林局）を中心に、現地の畜産業者・耕種農家・関連団体等 築上町サイド：築上町役場（特に産業課資源循環係）を中心に、築上町有機液肥固形堆肥利用者協議会、九州大学、佐賀大学、(有)環境ビジネスソリューション
II. 応募団体の概要	
1. 団体名（提案自治体）	有限会社環境ビジネスソリューション（福岡県築上町）
2. 対象国との関係、協力実績	築上町と金壇市はともに大都市近郊の農村を抱えており、農業、あるいは畜産業などの第1次産業の発展が町の先行きを決定するといった共通項がある。また気候、農業形態もよく似ている。築上町は住民啓発・生産者への指導等の「環境教育に基づいた有機性廃棄物の液肥化利用事業」において日本の先進地域であり、これまで国内のいくつかの自治体に技術移転をしてきた実績がある。こうした築上町の取り組みに、九州大学の中国人留学生を通じて金壇市が興味を持ち始め、金壇市自らの環境対策に築上町の技術・経験を活かしたいと考えたのが2008年である。その後、築上町と金壇市は活発な情報交換や相互訪問を経て、2009年8月に液肥利用による循環事業に関するMOU（Memorandum of Understanding）を締結した。